

## 平成 20 年度 情報工学コース卒業研究報告要旨

間瀬 研究室	氏 名	北 出 卓 矢
卒業研究題目	感情表現を含む実空間の体験記録が 体験共有に及ぼす影響の検討	
<p><b>背景と目的</b> 体験共有とは、体験者によって主観的に意味付けられた体験の共有である。他者が自分の体験に対して行った意味付けを体験共有によって共感することで、より豊かな人と人とのコミュニケーションが可能になる。筆者は、より深い体験共有のためには他者の感情と感情を生起した場所が重要であると考えた。そこで本研究では、実空間上の体験共有において感情表現を含む体験記録がユーザに及ぼす影響を調べることを目的とした実験を行った。</p> <p><b>感情・場所を共有することの重要性</b> 他者の意味付けに対して共感することは、体験共有の目指すことの一つであり、また共感体験共有をより深める効果を持つ。文献 [1] によれば、共感という現象において問題となるのは、今まさに経験されている対象がどのようなものとして捉えられているかということであり、また共感できるためには、“どのような経験をし、どのような考えをもち、どのような状況の中で、そのような感情をもつに至ったのか、という生きられた体験の経緯が描写されていなければならぬ”とある。ここで、「経験されている対象がどのようなものとして捉えられているか」を表すのが「感情」であり、「生きられた体験の経緯が描写されている」のが「場所」である。従って、より深い体験共有のためには感情と場所が重要であると考えられる。</p> <p><b>実験内容</b> 以上の考察に基づいて、実空間における体験共有時に、感情を含んだコメントがユーザに及ぼす影響を調べる目的で、被験者 9 名に対しそれぞれ 3 回の実験を行った。現在地の周りでコメントとその感情 (7 種の基本感情を採用) を読み書きできるシステムを作製し、当システムを用いて被験者ごとに同じ場所における感情の変化を調べた。1 回目の実験 (以降、<math>n</math> 回目の実験を実験 <math>n</math> とする。) では、感情を含まないコメントを提示した。次に実験 2 では、実験 1 で得られた他被験者の同じ場所におけるコメントを無作為に提示した。最後に実験 3 では、同じ場所で実験 1 と同様に感情を含まないコメントを提示した。</p> <p><b>実験結果とまとめ</b> 実験の結果、実験 1 と実験 2 で異なる感情を示したのは全体で 69.6%、実験 1 と実験 3 で異なる感情を示したのは全体で 63.1%であった。この結果は、感情を提示することによりユーザがより多彩な感情を生起させたことを表すものである。また、相手のコメントに対し共感する場面や、提示されたコメントに記載の無いことを、コメント内容から考えて新たな気づきと感情が生まれる場面など、興味深い箇所が複数見受けられた。</p> <p>実空間における感情を含んだ他者の体験記録を用いて体験共有を行うことにより、他者への共感や、新たな感情を抱くことが可能であるということが明らかになった。これにより、より深い体験共有の実現のために、他者の感情とその感情を生起した場所を共有することが有用であることが示された。</p> <p><b>参考文献</b> [1] 守屋 淳, “共感と他者理解”, 東京大学教育学部紀要, 第 24 巻, pp. 279-282, (1984).</p> <p>発表予定 北出, 平野, 梶田, 間瀬, “実空間上のコメントが体験の感情的側面へ与える影響の検討”, 2009 年電子情報通信学会総合大会, (2009).</p>		